



門真市版 授業スタンダード



平成25年9月 門真市教育委員会

市教育委員会は、平成24年度に実施された門真市学力向上対策委員会から、授業の改善を図る旨の具体的提言を受けました。この提言をふまえた授業改善が、全校でより一層進められるよう、各校の学力向上担当者のご意見を参考にしながら、授業1単位時間の流れを示した「門真市版授業スタンダード」を作成しました。

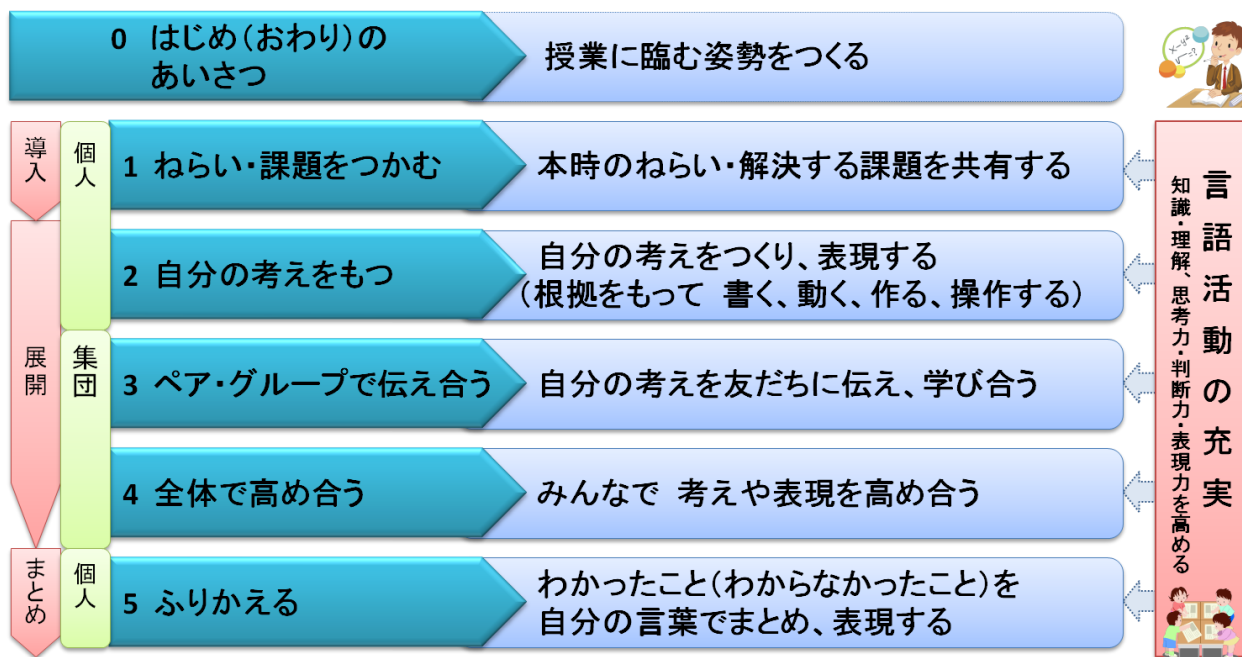
内容をご理解の上、各校において、授業スタンダードに基づく取組が行われるよう、日々の授業づくりや校内研修等にご活用ください。

教師主体の授業から、子ども主体の授業へ



知識・技能や思考力・判断力・表現力を育むためには、教師が一方的に説明する授業から、授業のねらいにふさわしい言語活動を取り入れた「子ども主体の授業」づくりへと転換することが大切です。

授業の土台となる言語環境を整備し、各教科・領域の特性に応じた言語活動の充実を図りましょう。



※ 言語環境の整備
 教師の言葉づかい 板書 掲示物やICTの活用 集団づくり

上の図は、

「個人の学びから始まり、集団での高め合いを経て、再び個人の学びにかえる」という流れになっています。このような流れを基本としながら、子どもの実態や学習課題の特徴に応じて、順序を入れかえたり、ある部分を焦点化したり省略したりするなどの工夫が必要です。



0 はじめ（おわり）のあいさつ

授業に臨む姿勢をつくる

◇授業開始時に、起立・礼をし、授業に臨む姿勢や心構えをつくらせます。

★ポイント★

- 子どもは、しっかりと立って礼をするなど、実際に身体を動かすことを通して、授業と休み時間のけじめがつけられるようになります。
- チャイムと同時に授業を始められるよう、教師も時間を意識しましょう。



1 ねらい・課題をつかむ

本時のねらい・解決する課題を共有する

◇本時のねらいと学習課題を明確に示します。

◇課題解決に向かって、既習事項や経験と結び付けたりするなど、子ども自身に1時間の見通しを持たせます。

★ポイント★

- 本時のねらいに結びつく、子どもが考えてみたくなるような課題、解決する価値のある課題を設定します。
- 子どもが学習課題を自分のこととして受け止められるように、具体物やICT機器等も活用しましょう。

2 自分の考えをもつ

自分の考えをつくり、表現する (根拠をもって書く、動く、作る、操作する)

◇子どもの思考を促すような発問、多様な答えが出るような発問を提示します。

◇どの子も課題に向き合い、自分の考えをつくり、自分の言葉や図・絵、操作などで表現する時間を十分に保障します。
(授業時間の1/3～1/4程度が目安)



★ポイント★

- 子どもは、一人ひとり、理解の仕方や学び方が違うということに配慮した支援を行きましょう。
- 自信がなく困っている子どもには、何に困っているのかを聞き出したり、具体物やヒントカードなどを示したりするなど、個に応じた支援を行きましょう。

3 ペア・グループで伝え合う

自分の考えを友だちに伝え、学び合う

◇自分の考えたことを、ペアやグループ（3～4人が望ましい）で伝え合い、共有します。

◇ペアやグループで話し合う中で、どの子にも、自らの言葉で自分の考えを説明する機会を保障します。

★ポイント★

- 話し合いによってつけたい力は何なのか、何の為に話し合うのか、何について話し合うのか、目的を明確にします。
- 考えを広げる話し合い、考えをまとめる話し合いなど、授業のねらいに応じて使いわけます。
- 話し合いの手順(司会や発表の仕方、意見のまとめ方など)を示し、話し合いが進んでいないペア・グループには、教師が進め方を指導します。
- 自分の意見を伝えるだけでなく、友達の考えの良さを認め合ったり、教え合ったりする活動を意識し、意見の深まりや新たな発見を持たせるようにしましょう。
- 教師とのやりとりだけでなく、子ども同士のかかわり合いの中で、一人ひとりの見方や考え方を深められるよう意識しましょう。



4 全体で高め合う

みんなで考えや表現を高め合う

- ◇ペアやグループで話しあったことを クラス全体で共有します。
- ◇「なるほど、そうだったのか。」「自分と違う意見だけれど納得できる。」「みんなと学んで、自分の考えが深まった。」「疑問が解決した。」など、子ども自身が、集団で学ぶ良さや学びの深まりを実感できるようにします。



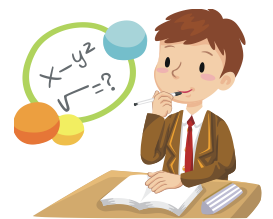
★ポイント★

- 単に意見を発表して終わるだけではなく、よりわかりやすい考えや説得力のある考えはどれかなど、自分の考えとの共通点や相違点を比較させながら、考えを深められるようにしましょう。

5 ふりかえる

わかったこと(わからなかったこと)を自分の言葉でまとめ、表現する

- ◇本時の学習をふりかえる活動を行います。
- ◇わかったことや新たな疑問、もっと学習したいことなどを自分の言葉でノートにまとめ、自己評価を行う時間を保障します。



★ポイント★

- 子どものふりかえりを 教師の自己評価にも生かします。
- 子どもにつけたい力がついたのか、わからない子どもへのてだては十分だったのかを教師自身もふりかえり、次の授業へとつなげましょう。
- ふりかえりに何を書かせるのかを意識して授業を構想すれば、指導と評価の一体化を図ることができます。

言語環境の整備

教師の言葉づかい

- 教師の言葉づかいは、言語環境の要素の一つです。
- 授業-公の場にふさわしい適切な言葉遣いで話し、子どもに話し方のモデルを示しましょう。

ICT機器・掲示物などの活用

- 子どもの視覚に訴え、興味・関心、学習理解を深めましょう。
- 子どもの実態に応じて、ICT機器（書画カメラ、大型TV等）や教室掲示を活用しましょう。

板書

- 学習課題や、1時間の学習の流れがわかるように板書します。
- 子どもの意見や思考を価値あるものとして、板書に位置付けます。
- 子どもの思考を促すために、見やすく構造的な板書づくりを行いましょ。

集団づくり

- 子どもが、集団の中で安心して意見を出せるような雰囲気をつくりま。
- 教師は子どもの意見を受け止め、子ども同士をつなぐ役割を果たしま。
- 聞き手を育てることが、話し手を育てることにつながりま。



★言語活動の一例

- ・レポートや新聞にまとめる
- ・ICTを活用する
- ・ペアで意見を交流する
- ・立場を決めて討論する
- ・付箋やホワイトボードを使って話し合う
- ・作ったポスターを使って発表する
- など

授業に入る前に・・・

◇授業計画を練る段階においては、深い教材解釈と子ども理解が大切です。

授業に入る前に必要なことを以下の6点にまとめました。

授業前にチェックしてみましょ。

□既習事項は何か、現時点の子ども達にどのような力がついているのか（ついていないか）を把握していますか？

□子どもの興味・関心、経験、個々の分かり方、つまずきを事前に把握していますか？

□本単元でつけたい単元のねらいと評価規準は明確ですか？

□教材の特性を分析し、単元のねらいにふさわしい言語活動を取り入れていますか？

□発問・課題の提示の仕方は、工夫されていますか？

□予想される子どもの反応や、支援が必要な子どもへの手立て等を考えていますか？

□本時のねらいにせまる板書計画を立てていますか？